

2015年8月27日  
東京電力株式会社

敷地境界付近のモニタリングポスト No.7 近傍に設置されている  
ダストモニタの警報の発報について

8月7日午前7時34分、敷地境界付近のモニタリングポスト No.7 近傍に設置されているダストモニタにおいて、ダスト放射能濃度の上昇を示す「高警報（警報設定値： $1.0 \times 10^{-5} \text{Bq/cm}^3$ ）」が発生しました。その後、同日7時42分、当該モニタの「高警報」が復帰し、警報発生前の値に戻ったことを確認しております。当該モニタリングポスト以外の発電所構内ダストモニタおよびモニタリングポスト指示値に有意な変動はございません。なお、8月7日は1号機原子炉建屋カバー解体およびがれき撤去作業は行っていません。

その後、当該モニタの「高警報」が発生した際に使用していたろ紙を回収して分析した結果、天然核種（鉛 212）が検出されたものの、それ以外の核種は検出限界値未満でした。また、ストロンチウム 90 が存在するかどうかを定性的に測定した結果、検出はされませんでした。

このことから、当該モニタの「高警報」が発生した原因は、当該モニタ付近に発生した天然核種の影響によるものであり、作業に起因したものではないと判断しています。

<回収したろ紙の分析結果（主な核種）>

- ・鉛 212 :  $2.4 \times 10^{-6} \text{Bq/cm}^3$
- ・セシウム 134 : 検出限界値未満（検出限界値： $1.4 \times 10^{-6} \text{Bq/cm}^3$ ）
- ・セシウム 137 : 検出限界値未満（検出限界値： $1.8 \times 10^{-6} \text{Bq/cm}^3$ ）